

## 株主アンケートへのご協力をお願い

当社では、株主の皆様への適切な情報開示に努め、当社の経営についてより一層ご理解いただけるIR活動を行ってまいりたいと考えております。つきましては、当社及び当社のIR活動に対する株主の皆様のご意見を、ぜひお聞かせください。

**受付期間** 2019年11月25日(月)～  
2019年12月31日(火)

**回答方法** 同封のアンケートハガキにご回答  
いただき、ご返送くだ  
さい。切手は不要です。



## コミュニケーションツールのご案内

当社は、公式サイトやソーシャルメディア等を利用したプロモーションや企業活動の告知を行っております。お客様、投資家を含めたステークホルダーの皆様とのより良い関係づくりを目指し、日々コミュニケーションの充実に努めてまいりますので、ぜひ、株主の皆様も様々な形で当社に触れてみてください。

### 公式ウェブサイト



<http://www.rikei.co.jp/>

### 公式 Twitter アカウント

 @rikei\_pr



### メールマガジン

[https://www.rikei.co.jp/mail\\_magazine/](https://www.rikei.co.jp/mail_magazine/)



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
TEL **0120-232-711** (通話料無料) (平日9:00~17:00)  
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場市場 東京証券取引所 市場第二部

電子公告  
公告掲載URL <http://www.rikei.co.jp/>  
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

### 【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

# RIKEI REPORT 2019

## 第63期 中間報告書

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日

### Feature

中期経営計画注力事業のご紹介

### Topics 1

AIを用いた「踏切映像伝送システム」の実証実験に参加  
～踏切の安全性向上の追求に貢献～

### Topics 2

Siklu社製 高速無線LANシステム  
「EtherHaul / MultiHaul」の様々な活用

## 基盤三事業の強化とともに 新たな事業領域を確立することで 収益の更なる拡大を目指してまいります

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は第63期の上半期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)を終了いたしましたので、その概況についてご報告申し上げます。

当上半期におけるわが国の経済は、雇用情勢・所得環境の改善が続くなか、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。米中間の貿易摩擦の動向が世界経済に与える影響や、消費税増税による消費の落ち込みが懸念されるなど、先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループは、2019年5月20日に公表いたしました新中期経営計画に基づき、当社グループの基盤三事業につき、市場変化に合わせ、より柔軟に事業領域や組織の見直しを行うとともに、新たな事業領域の確立や、相乗効果が見込まれる他社とのビジネス連携・資本提携・M&A等を推進していくことで収益の更なる拡大を目指しております。

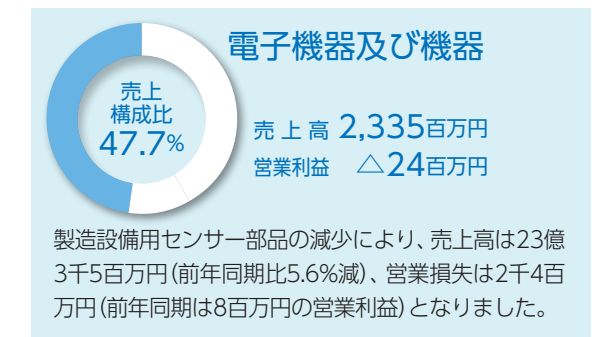
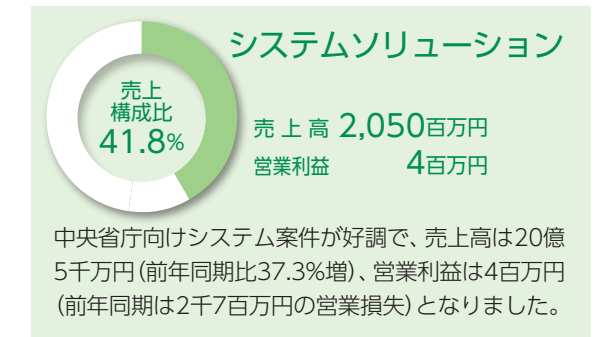
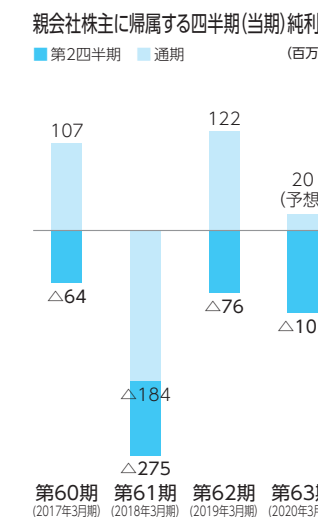
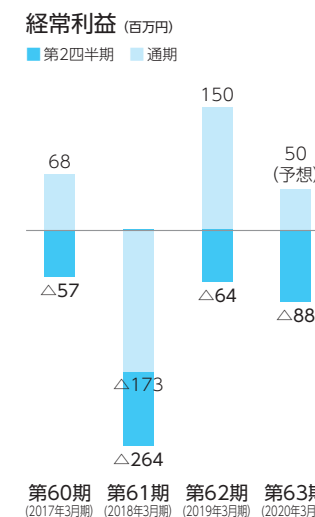
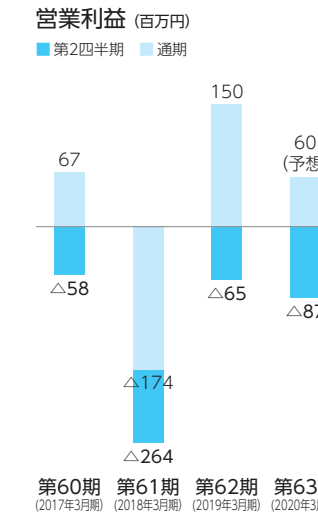
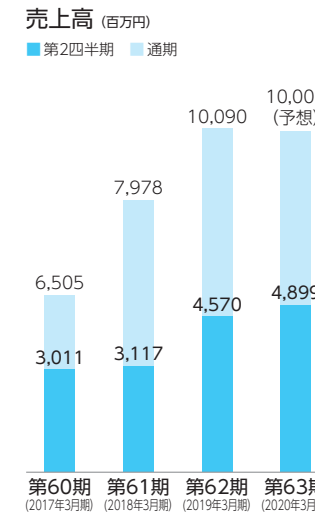


代表取締役社長 猪坂 哲

この結果、当上半期におきましては、連結売上高は48億9千9百万円(前年同期比7.2%増)となりました。損益面では、営業損失は8千7百万円(前年同期は6千5百万円の営業損失)、経常損失は8千8百万円(前年同期は6千4百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億1百万円(前年同期は7千6百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

今後も引き続き、各事業領域の収益力を高め、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



## 中期経営計画注力事業のご紹介

### データ分析／未来予測分野

メーカー：mnuボ社  
製品名：AloT Platform



IoTデータの解析を早く、簡単に行うための実行環境です。現在、製造業向けに設備の兆候を捉える予知保全のためのプラットフォームとして提案を進めています。コードや複雑な設定なく、データの前処理、機械学習、AIのモデル開発まで、すぐにデータ解析が始まります。

### 5G通信／防災情報分野

メーカー：Siku社  
製品名：EtherHaut-8010FX

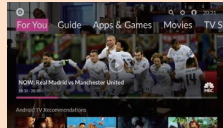
70/80GHzの無線を使った通信機です。数kmの距離で10Gbpsという高速の伝送が可能です。5G用の基地局の通信は10G Etherでの接続が基本です。通常基地局は、光ファイバーで接続しますが、イベント用など仮設で設置する場合や光ファイバーの敷設が難しい場合にEH-8010FXを使って無線での接続が可能です。



### 映像配信分野

メーカー：Amino社

Amino社はIP-TVやクラウドTVにおいて、ハードウェア(STB)から配信、視聴に関わるバックエンド(ミドルウェア、アプリケーションソフトウェア)までのサービス配信プラットフォームを提供しています。ライブ、VOD、マルチスクリーン配信、クラウドPVRなど様々なニーズに合わせ、画面のカスタマイズや遠隔端末管理、ユーザーのコンテンツ視聴動向等の統計・分析など、拡張性、柔軟性、独自性、そして運用利便性に富んだトータルソリューションを提供しております。



## 新たな注力事業分野

## AI IoT 5G通信 VR/AR



### ウェアラブルデバイス分野

メーカー：株式会社Enhanlabo  
製品名：b.g.(ビージー)

両眼視による「見え方」と前後左右のバランスにこだわった「かけ心地」を追求したメガネ型ウェアラブル端末です。HDMIで入力した情報を出力、あらゆるアプリケーションやコンテンツと連動が可能です。医療、製造業、建設業、住宅、福祉など多岐にわたる業界でご利用いただいております。

### 自動運転分野

当社では車両開発メーカー及びサプライチェーン向けに車両開発用VR(仮想空間)の制作及びパッケージ販売を行っております。当製品を用いることで先進運転支援システムのAI開発を効率的に行うことができます。現実世界を仮想空間上に忠実に再現することで、現地でテストをせずとも、シミュレーション上で行うことができ、24時間365日社内テストが可能となります。また季節や天候もVR空間で自由に変更できるため、特定の条件下のテストも実施できます。VRの活用は広がっており、ドライビングシミュレーターや車内の内装の開発にも利用可能となり、今後最も期待されている技術の一つとなります。

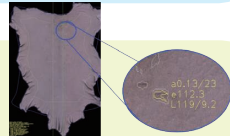


### 画像認識分野

メーカー：Mindhive社

製品名：Model-V(外観検査、設備検査)、Model-Q(動線解析)

本AIソリューションは製造工程での目視検査や、設備の検査、また人やモノをトラッキングし、作業工程や動線の解析のために利用されています。主に製造業や小売り・流通業に向けアプローチをしています。AIモデルを作成し提供のみ行うベンダーも多い中、当社ではモデルをシステムに組み込み動かすためのアプリケーションまで、要望に合わせて作成可能です。



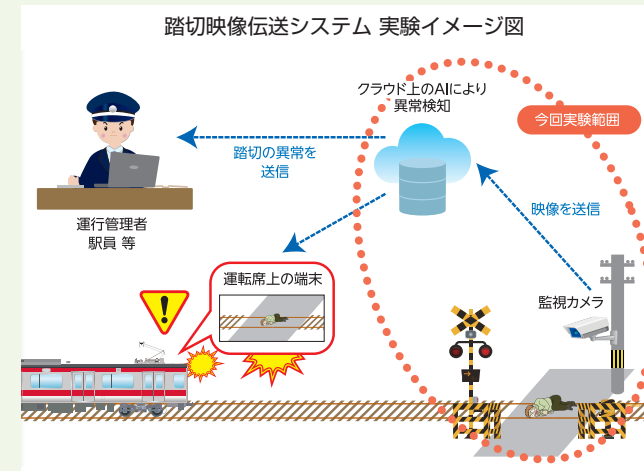
## AIを用いた「踏切映像伝送システム」の実証実験に参加

～踏切の安全性向上の追求に貢献～

踏切の安全性向上を目的とした、人工知能(AI)を用いた「踏切映像伝送システム」の実証実験に参加いたしました。

### 実証実験に参加した経緯

東急テクノシステム社では、2013年から踏切のカメラ映像を低コストで安定的に伝送する実証試験を行っていました。現在のAIを組み合わせた映像伝送システムも2017年から始まっていましたが、侵入検知の精度に不安があり、コスト面で透明性がないなど、製品化には課題もありました。2018年に東急池上線の雪が谷大塚駅における踏切で行われた実証試験においては、当社が本実証試験だけでなく、将来的に東京急行電鉄(東急)の踏切道全ポイントに導入した場合、及び他の民間鉄道事業者を導入することになった場合までを想定した提案をしたことで、長期的なパートナーシップが望めると評価いただき、採用に至りました。



### 鉄道事業者への展開

国土交通省の資料によると、踏切のある鉄道事業者は144社、踏切の数は22,770か所です。現在は赤外線やレーザー光線を踏切内に投射して、その光を受光器で受け取ることで

障害物を検知する装置の設置が主流ですが、予算の限られている地方の中小鉄道事業者では導入が難しいケースが多く、踏切支障報知装置(非常ボタン)が押されないと異常の把握が不可能です。

本システムは、導入のハードルが高い踏切障害物検知装置と比較して低コストで簡単に設置ができる上に、侵入した検知対象が何であるかを判断し、映像として見る事ができます。当社は、上記のような踏切障害物検知装置を導入できていない鉄道事業者をターゲットとして開発と販売を進めております。

### 今後の展開

本システム自体は鉄道事業者に的を絞っていますが、AIを用いて画像・映像を解析するテクノロジーを中心としたソリューションが他のシーンでも貢献できると考えております。同じ鉄道業界でも、駅構内でホームから落下しそうな人物やハンディキャップを持つ人を検知するなど、駅員が呼ばれる前からサポートできる体制を作ることもできます。これまでお付き合いのある衛星通信や放送に携わる企業でも、衛星写真の情報から農水産業の収穫を予測することや、石油タンクの上蓋の影から残余量を確認することも可能ですし、テレビ番組を放送する前にスポンサーに競合製品が入っていないか、放送してはいけないカットがないかなどをチェックすることも可能です。

世界中の全IPTraフィックに占めるビデオトラフィックの割合は、2021年には82%に増加すると見込まれています。日常生活のいたる場面で映像が利用されればされるほど、AIを活用した映像解析のニーズも自然と増加すると考えられるため、そのニーズに柔軟に応えられるソリューションベンダーとなるべく、本システムを完成できるよう努めてまいります。

詳細はこちらからご確認いただけます。  
無線 LAN  
<https://www.rieki.co.jp/mail-magazine/pickup/19.html>



## Siklu社製 高速無線LANシステム「EtherHaul / MultiHaul」の様々な活用

当社が2013年より取り扱っているSiklu社の「EtherHaul / MultiHaul」は、Vバンド(60GHz)を利用した1Gbpsの無線通信を可能としたPoint to Multi Pointの高速無線LANシステムです。有線回線の設置が困難な環境や、ビル間通信、監視カメラ、防災分野などの高速通信が必要とされる環境で威力を発揮いたします。また免許申請が不要な周波数帯であり、すぐに運用を開始できるため、様々な用途で活用されています。

今回はその活用例をご紹介します。

### イベント会場や展示会でのネットワーク利用

イベントで会場を設営する際、昨今はネットワークの確保は必須です。ネットワークを敷設する際、インターネット・アクセス用に天井やポールにWi-Fiアクセスポイントを設置したとしても、バックボーンがインターネット回線につながっていないとなりません。また、展示会では離れたブース間でネットワークをつなげたいといった要望も頻繁にあります。通信ケーブルを敷設すればよいことですが、長距離に渡ってケーブルを敷くのは大変な作業であり、歩行の邪魔にならないように施工や設置も工夫しなければなりません。



そのような時、「EtherHaul / MultiHaul」は通信ケーブルと同様に、1Gbpsの通信ができる無線ネットワークを簡単に構築できます。雨に濡れても問題ない屋外仕様で、免許の申請も不要なため、迅速に構築が可能です。

### 市街地、海上など様々な場での通信に利用

「EtherHaul / MultiHaul」は無線LANを使用するための免許も必要なく、自動的に子機を見つける機能があり、設置が容易でありながら、大容量のデータの伝送が可能です。そのため、近年増加している市街地などでの監視カメラ映像の伝送や、一部では、船と陸地の通信にも利用されています。

### 施設の増設に伴うネットワーク環境の整備に利用

病院などで施設を増築した際、敷地が確保できず、道路や駐車場越しなどの少し離れた場所に建物を増築しなければならないケースがあります。このような場合、利用しているシステムを共有するために有線インフラを引けない場所に「EtherHaul-600TX」は大変有効です。

スループット(一定時間に処理できるデータ量)が大きいだけでなく、ネットワークの遅延も非常に少ないため、増築した施設においても快適にご利用いただいております。

当社が取り扱う無線LANシステムは、今回ご紹介した製品以外にも多数のラインアップがあり、用途や設置場所の地形特性に応じて利用する製品は変わります。無線LANシステムを15年以上扱っている当社では多数の導入実績を有しており、今後お客様にとって最適なシステムの提案、設置、運用サービスを提供してまいります。

### 1Gbpsとは?

インターネットの通信速度(bps)の目安として、WEBサイトの閲覧・メールの送受信には10Mbps、動画を見る、音楽をダウンロードするには50Mbps、高画質動画を見る、オンラインゲームをするには100Mbpsが快適に利用できる目安とされています。このような基準に照らすと、1Gbps=1,000Mbpsとはとても早い通信速度ということが分かるかと思えます。

### ■ 会社概要

商号	株式会社 理経 (RIKEI CORPORATION)																						
本社所在地	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 〒163-0535																						
設立	1957年6月8日																						
資本金	34億2千6百万円																						
決算期	3月																						
従業員数	140名																						
役員	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>猪坂 哲</td> </tr> <tr> <td>常務取締役</td> <td>古畑 直樹</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>古田 耕児</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>長谷川 章詞</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>小柳 誠</td> </tr> <tr> <td>取締役(社外)</td> <td>石川 理香</td> </tr> <tr> <td>取締役(社外)</td> <td>大橋 博行</td> </tr> <tr> <td>取締役(社外)</td> <td>伊達 雄介</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役(社外)</td> <td>田邊 悦雄</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>石橋 信一郎</td> </tr> <tr> <td>監査役(社外)</td> <td>秋元 創一郎</td> </tr> </table>	代表取締役社長	猪坂 哲	常務取締役	古畑 直樹	取締役	古田 耕児	取締役	長谷川 章詞	取締役	小柳 誠	取締役(社外)	石川 理香	取締役(社外)	大橋 博行	取締役(社外)	伊達 雄介	常勤監査役(社外)	田邊 悦雄	監査役	石橋 信一郎	監査役(社外)	秋元 創一郎
代表取締役社長	猪坂 哲																						
常務取締役	古畑 直樹																						
取締役	古田 耕児																						
取締役	長谷川 章詞																						
取締役	小柳 誠																						
取締役(社外)	石川 理香																						
取締役(社外)	大橋 博行																						
取締役(社外)	伊達 雄介																						
常勤監査役(社外)	田邊 悦雄																						
監査役	石橋 信一郎																						
監査役(社外)	秋元 創一郎																						

### ■ 支店及び営業所

大阪支店	大阪市北区西天満1丁目7番20号
東北営業所	仙台市青葉区一番町1丁目2番25号
名古屋営業所	名古屋市中区丸の内3丁目17番4号
九州営業所	福岡市博多区博多駅前2丁目20番1号
技術センター	千葉市美浜区中瀬1丁目3番地
沖縄出張所	那覇市前島3丁目25番2号
北米駐在事務所	米国オレゴン州ベンド市

### ■ 連結子会社

- リケイ・コーポレーション(H.K.)リミテッド**  
事業内容: 電子部品及び機器事業
- 株式会社エアロパートナーズ**  
事業内容: 航空機及び航空機器部品の販売・リース・カスタマーサポート
- 株式会社ネットウエルシステム**  
事業内容: システム開発・サービスの提供
- エアロパートナーズ・アメリカ, Inc.**  
事業内容: 航空機及び航空機器部品の輸出入

### ■ 株式の状況

発行可能株式総数	55,000,000株
発行済株式の総数	15,514,721株
当期末株主数	6,783名

### ■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
石川 理香	1,586	10.49
J.P. Morgan Securities plc	614	4.06
株式会社三菱UFJ銀行	466	3.08
明治安田生命保険相互会社	465	3.07
株式会社SBI証券	183	1.21
モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社	139	0.91
松井証券株式会社	127	0.84
理経従業員持株会	123	0.82
黒田 哲夫	107	0.71
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE	106	0.70

(注)持株比率は自己株式395千株を控除して計算しております。また、小数点第2位未満を切り捨てて表示しております。

### ■ 所有者別株式分布状況

